

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1190600013		
法人名	株式会社メデカジャパン		
事業所名	庄和ケアセンターそよ風		
所在地	344-0117 埼玉県春日部市金崎675-2 Tel 048-718-3730		
自己評価作成日	平成22年 4月30日	評価結果市町村受理日	平成22年 7月 2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	平成22年 5月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「共に生きる」というそよ風の理念を実現すべく、職員一同が、ご利用者様をまるで自分の両親・家族と同じであるように介護する事を心がけている。
 ご利用者様を一人の自立した個人として、人生の先輩と見て、学べる場所は学ばせていただき、私達も成長できるような関係を築いている。
 食事おやつが楽しみになるよう職員が心を込めて手作りしている。病院の受診については、送迎範囲を相談の上、職員が緊急的・定期的病院受診の付き添いを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「共に生きる」の理念のもと、利用者職員とのコミュニケーションが良好で、自宅と同じ「アットホーム」な落ち着いたある生活の場としての居住空間となっている。
 主役は利用者であり、職員は手を貸すことと、見守りに徹して、利用者の意思を尊重し、やりたいこと、好きなことをリラックスしてやっていただくため、支援の工夫に努めている。
 家族、職員、地域の方など多くの方々の協力で支えられ、管理者を中心に職員が近隣への働きかけを行い、サービス業の考え方で、日々の運営が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の独自の理念として「共に生きる」を掲げており、その目標実現に向けて、職員一同、日々取り組んでいる。	「共に生きる」という理念のもとに、利用者には自立した個人として接し、尊敬の念を持って学べることは学び、楽しく生活していただくよう、職員一人ひとりが日々サービスを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には積極的に参加している。庄和マラソン大会応援、県営はなわ団地合同草取り、庄和高校生徒のボランティア受け入れなど交流に努めている。	自治会へ加入はしていないが、自治会長との連携で、地域の草取りの手伝いに参加するなど交流を図っている。また、市のマラソン大会時に、事業所の周年祭を開催して、近隣の方にも気軽に事業所内に入っていただく工夫もされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設行事等に地域住民の参加を集い、施設運営にご理解とご支援をいただけるように努力して、認知症の理解を深めていただく機会としている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開き、利用者様へのサービスの報告、内容などを話し合い、サービス向上に活かしている。自衛消防訓練、利用者様食事サービス試食会等を実施している。	運営推進会議は参加者が集まりやすいように、事業所の行事が行われるときに開催し、元利用者の家族なども参加している。また、会議時に避難訓練を実施し、参加者より様々な意見・提案をいただき、運営に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市、高齢福祉課の職員の来訪いただいたの話し合いを持ち、また地域包括支援センターの研修会に参加しその際にサービス向上の話し合いをしている。	市主催の行事に参加したり、事業所の運営の報告を行うなど、定期的な連携は図られている。事業所の周年祭時、ボランティア派遣を依頼し、紹介いただくなどの協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロを目標に身体拘束をなくす努力をしている。玄関施錠の弊害は理解しているが、その代替として、散歩の機会を増やしたり利用者様ができる限り、外部の空気に触れる機会を多くしている。	サービス業としての心で、精神的な面も含め、言葉使いや行動の抑制など、拘束をしないケアが周知徹底されている。利用者を尊敬し、親しみが馴れ合いにならないよう注意もされている。	身体拘束防止について、職員が記入したワークシートをもとに、全員で意見を出し合うグループワークなどを取り入れ、身体拘束防止への理解を、更に、深められることに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の虐待防止講習会に参加し、センター内に持ち帰り、虐待防止委員会を実施している。施設内で虐待が見過ごされる事が無いように、職員の意識向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度は勉強会実施済み。日常生活自立支援事業は未実施で今後勉強会開催予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書を十分時間を取りながら説明、理解 納得を図っています。質問や疑問点はいつでも尋ねられる体制を整えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情相談窓口を明記し、利用者家族等の苦情があれば、担当者が責任を持って対応する体制を整えている。	運営推進会議後に家族間での話し合いの場を設けており、要望などはすぐ報告され、対応されている。ジェネリック医薬品について、家族から質問希望があり、すぐ検討して、取り入れた事例もあり、利用者や家族の意見や提案が反映しやすい環境になっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議で運営の報告を行い意見・提案等を聞いている。職員の個人面談時に意見や提案を聞く機会を設けて、今後の施設運営に反映させている。	職員会議やアンケート、個別面談等を利用し、職員の意見を聴くように心がけている。職員間のコミュニケーションも良好で、意見や提案は言いやすい雰囲気が作られている。	サービスの質をさらに上げるため、職員から提案や企画などを積極的に発議してもら得るよう、テーマを絞って、具体的な質問や課題を与えるなどの方法を検討されることに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を活用し職員と一対一で面談する機会を設け、その職員の希望を踏まえての目標設定をして、スキルアップややりがいを育てるように支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人面談の時に、自分で目標を立てさせてそれを達成できるよう促している。資格習得を奨励・応援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣施設と各種行事・業務支援等で人的交流をはかり、自分のところにないものを学ぶなどサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	「初めてで不安に思う事も沢山あるでしょう」と話し、「困っている事などあれば何でも相談してください」と勧めている。早く施設になれて、他の利用者と交流できるよう、職員が媒介となる支援を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時にご家族とゆっくり時間を掛けて話をして、困っている事などの相談できる関係作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実地調査を行い、ご本人の状態把握に努め、グループホームに適した入居対象者であるかを十分に検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が出来る事を積極的に行っていたことで残存能力を維持して、自尊心を持った一人の個人として暮らしていけるよう、共に生活を支えています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事や運営推進会議に参加していただき、ご家族の意見をいただきながら、共に利用者を支えあう関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所のスーパーに買い物と一緒にいき、馴染みの場所の関係を途切れないように努めている。	入居前から行っていた神社へ出かけたり、行きつけの理・美容を利用するなど、交流が継続できるよう家族と協力しながら支援をしている。また、携帯電話で知人と連絡を取り合っている利用者もあり、馴染みの関係が途切れないよう配慮されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を見極め、職員が間に入り、利用者様同士が生活を共にし支えあう関係が作れるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去のご家族様にも運営推進会議の委員等に参加していただき、各種行事のお便りを差し上げて、関係が途切れないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から職員がご利用者の思いや意向を聞いて、それを日々のケアに生かせるようカンファレンスで話し合っている。	利用者との信頼関係を築くことを大切にしながら、様子の気になる利用者へは、居室で個別に話を聴いたり、意向を聴き出すなどの努力をしている。また、入浴中に話をしたり、時間をおいたり、話題を変えたりなど工夫が実践されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実調の際、担当ケアマネ、ご本人、ご家族に生活歴、なじみの暮らし、生活環境、経過などを尋ねて、本人の全体的把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化に注意して、気づいた事は職員間で共有する為にカンファレンスし、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族とご本人の現状にそくした介護計画の話し合いをして、ご家族の要望も取り入れたケアがなされるように計画している。	月1回のカンファレンスの情報や本人、家族の希望を聴きながら、介護支援専門員が計画作成にあたっている。カンファレンス以外にも、職員間で常に話し合い、情報を共有し、チームケアで取り組みが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様の支援経過に日々の様子、ケアの実践を記録し情報の共有に努めて、良いケアのあり方は皆で手本とし、より良い介護が提供できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族のニーズに対応してリハビリ、外食レク等新しいサービスを導入し、サービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	アシスト春日部にボランティアを派遣してもらえるよう依頼し、行事等に協力していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の愛和病院、他医療機関と連携を図り受診の際には職員が付き添い、適切な医療を受けられるよう支援している。	協力病院での受診を基本に、利用者の希望するかかりつけ医への受診にも、職員が対応し、医師との情報交換を行うことで、利用者が適切な医療を受けられるよう支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診に職員が同行して、日常の様子を伝える事で、受診先の病院看護職や栄養士と連携を図り、適切な治療を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院に向けて入院先の治療計画のカンファに参加したり、看護サマリー計画、介護記録の情報交換をするなど連携を深めている。ご利用者様が入院した際職員が頻繁に、面会し安心して過ごせるよう心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と相談を持ち、ご家族のつらい気持ちに共感しつつ、重度終末の方針を定め、それを病院関係者、職員で共有し、支援する体制を作っている。	家族とは早い段階から話し合い、医療と連携しながら、チームで取り組み、できる範囲の支援を行っている。家族へのケアと共感を大切に、職員が精神的に支える体制が作られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習会に全職員が参加している。応急手当や初期対応の訓練は今後予定している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練年2回実施(1回は夜間想定)に加えて、自主防災訓練を新たに始めた。スプリンクラーを設置すると共に、職員の防災意識の向上、避難誘導の訓練を行なっている。	運営推進会議で、特に夜間想定訓練を重視し、緊急連絡網を整備したり、避難経路を確認し周知徹底するなど、利用者、職員の命を守る防災体制を整えられている。	運営推進会議で、防災の重要性が捉えられており、さらに消防署の協力を得て、地域住民と合同の防災訓練を実施することで、地域からも守られた事業所になることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	カンファレンスを定期的に行い、利用者の個性の把握に勤め、自尊心を持って生活できるよう配慮した支援を行っている。	命令的な言葉は使わない、許可なく居室に入らないなど、利用者の尊厳とプライバシーの確保への配慮がされている。人生の先輩として、学べるところは学ぶように努め、感謝の気持ちで接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から「困った事があれば何でもいってくださいね」と声掛けして、要望を気軽に相談できる関係作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れは決まっているが、それを強制することなく、自分のペースを優先して生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ひな祭りなど行事の時には化粧を楽しんでいるが、今後は日常的にお洒落が楽しめるように計画中である。訪問美容に来て頂いたり又はご自分で好きな理髪店等に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の能力に応じて、食事の準備や片付けを手伝っていただき、職員と一緒に会話をしながら、食事をしていただいている。又買い物時にご自分で好きなもの買ったり、職員が買ってきたりし自分の好きな物が召し上がられるようしている。	食事の匂いや作る音や温度を感じていただくことを大切に、作りたてのものを出して、すぐ食べていただくよう努められている。職員も一緒に食べ、利用者には食事の準備や後片付けを手伝っていただき、食事を楽しむ支援がされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量の記録をつけ、食事量・水分量の少ない方には個別の食事や、ゼリー・ヤクルトや栄養補助食品等を提供して、補食している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者を洗面台に誘導し口腔ケアを行なっている。職員ができない部分については、訪問歯科に治療と口腔ケアをしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の状態に合わせて、リハビリパンツの使用や、定時トイレ誘導、ポータブルトイレ設置など、排泄の自立に向けて、支援している。	利用者の意思を尊重し、できるだけトイレでの排泄の自立を目指しており、布下着を利用する方もおり、適宜声掛けを行い、支援している。また、利用者の自尊心を傷つけないよう、羞恥心への配慮もなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな方には、水分を多めに取っていただいたり、運動してもらったり、自然な排便が行えるように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯は15時から18時を予定しているが、それ以外でも希望があったり、介護が必要な場合は、自由に入浴していただけるよう対応している。	自分のやれることはやっていたり、介護しすぎないように、見守り中心の支援を行っている。また、脱衣場の温度にも配慮し、ゆっくりとリラックスして入浴いただけるよう工夫されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	以前使っていた寝具を持ち込んでいただき、プライバシーの守られた個室で安心して気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表の作成、利用者別の薬の分包を行い、服薬支援している。今後は職員の薬に対する知識を深める勉強会を計画している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご希望のレクリエーションを取り入れたり、家事の手伝いをさせていただいたり、本人がその日行いたい事など施設の中で自分の役割を感じられるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩に出かけ、季節の花を見にドライブに出かけたり、買い物に同行したり、外出の機会を多くしている。	利用者の希望を優先させ、外出の機会を多く設けている。外出しにくい利用者には、ベランダに出て気分転換を図っていただくなど工夫し、できるだけ外気に触れる機会がもたらされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望者は買い物にスーパーに出かけ、自分の好きな物を買って楽しむ支援をしている。お金の管理は、施設で預かりの方、希望があればご家族様と相談し本人管理してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	年賀状など季節の便りや、希望があれば携帯電話の持込や、施設電話を使っていたりなど、家族との絆が感じられるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りを利用者と共により作り、壁に飾る事で季節感を感じていただき、掃除に力を入れて、不快な臭いや汚れを除去して、心地よく生活できる環境を作っている。	居住空間は清潔感を重視し、臭いや汚れがないよう配慮がされている。また、落ち着いた季節の飾り物などで、季節を感じていただく工夫もされており、様々な生活音、生活の匂いなど、五感への刺激も大切にされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになりたいときは居室に戻ったり、おしゃべりしたい時はリビングに出たり、自由に過ごせる空間作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物品を出来るだけ持ち込んでいただき、居室を今までの環境と似たものにする事で、心地よく暮らせるパーソナル空間を作っていたりしている。	入居前の住環境の継続を基本に、居心地の良い居室作りに職員や家族が協力をしている。また、居室内に手すりを設置することで、利用者にとって、安心感のある居室空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリー化しており、手すり、エレベータ、床段差の解消など、安全に自立した生活が送れるように設計されている。		

(別紙4(2))

事業所名 庄和ケアセンターそよ風

目標達成計画

作成日: 平成 22年 7月 1日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	グループホームの防災の重要性が社会的に見られているが、施設の防災体制が単独で考えられており、地域との連携が取れていない。	庄和消防署の協力を得て、地域から守られた施設とするために、はなわ団地との合同消防訓練を実施する。	はなわ団地会長に主旨を説明し賛同いただく。スケジュールを調整して、7月27日に、「合同消防訓練」を団地住民とともに、消防署員の立ち合いのもと、実施予定である。	1ヶ月
2	6	身体拘束防止について研修は行われているが、その内容をもっと充実させ、職員の意識が向上し、よりよいケアを実践できるようにしたい。	研修内容を充実させるため、よい教材を手に入る。職員の中から研修担当を決め、研修準備を進める。	ワークシート方式の身体拘束防止研修教材を「こうのすケアセンターそよ風」より送付してもらった。職員より研修担当を定め、第1回(7月)第2回(12月)研修実施予定である。	5ヶ月
3	11	職員から提案・企画を積極的に発議してもらい、業務改善・サービス向上につなげる仕組みが作れていない。	提案・企画のための書類を整備して利用しやすいようにする。月間目標を定め、テーマをしぼった提案を募る。	企画書フォーマットを定め、企画、実現までのプロセスを明確化できるようにした。7月はヒヤリハット月間と定め、事故防止の視点からの提案を募る。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。